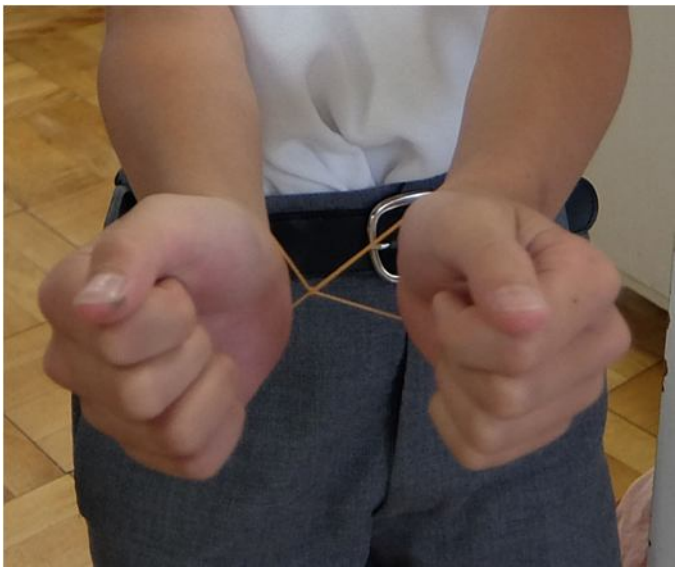
「日々の理科」（第 709 号）　2016（H28),-6,15

「輪ゴムをくぐり抜ける（１）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

３年生の理科の単元に、「ゴムや風で動くおもちゃ」というのがある。この単元は面白い。身近な輪ゴムを使うところが特にいい。ゴムが伸びる性質、そして元の長さに（大きさに）もどろうとする性質を、遊びながら理解させることが、目標の一つだ。

これがどこの家庭にでもある、普通の大きさ・太さの輪ゴムである。子どもにこれを渡すと、すぐに指で回したり、伸ばしたりして、その弾力の感触を楽しみだす。この「弾力を楽しむ」という経験が、実はとても大切なのだ。



「見て見て、輪ゴムの手錠だよ！」

そのうち、腕を通したり、はち巻きみたいに頭にかぶせる子どもも出てくる。頭から首までかぶせても輪ゴムは切れない。一人の子どもが言い出した。

「これ、体全部くぐれるかなぁ？」

「えーー、くぐれっこないよ！」

「小さすぎてムリー。切れちゃう、きっと」

「でも、くぐれるかも！」

一旦、活動をやめさせて、予想をさせてみた。

くぐり抜けられると思う・・・８人

途中でつっかえる・・・１５人

輪ゴムが切れる・・・１１人

「で、先生はどう思いますか？」

「無理だろうね。こんなに小さい輪ゴムだよ」

その時点では、私も実際に無理だろうと思っていた。さて、面白いことになってきた。制服が邪魔になりそうなので、急いで体育着に着替えて、さっそく「輪ゴムくぐり大実験」をスタートした。

上履きや靴下は特に指示をしなかったが、ほとんどの子どもは自分で脱いで挑戦していた。まずは、足から。さて、うまくくぐれるだろうか？？　（つづく）